



【農林水産部】

琉球泡盛テロワールプロジェクトの 取組状況を報告します

「琉球泡盛用長粒種米の収穫」

No.5

沖縄総合事務局では、「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」の取組の二環として、琉球泡盛の醸造に当たり、地域に根ざした原料を使用すること（テロワール）により付加価値を高めるための取組を推進しています。

今回は、令和元年8月に伊平屋村で植付けした、泡盛用長粒種米の生育状況と収穫について紹介します。

泡盛用長粒種米の生産は、県内で数少ない取組のため、生産者の方々も試行錯誤の状態でしたが、台風や病害虫などの影響を受けることなくすくすくと成長しました。



たわわに実った稲



コンバインによる収穫の様子



収穫の状況

そして、11月30日から12月1日にかけて、J A伊平屋支店をはじめ関係者が見守る中、初回の収穫を行うことができました。今後、随時収穫を行うこととしており、収穫した米は、酒造所に搬入され、泡盛の醸造が開始される予定です。

沖縄総合事務局では、琉球泡盛と県産原料米を結びつけることで、生産者の経営安定化と付加価値を高める琉球泡盛の輸出促進を図るため、関係者の協力のもと今後も積極的に取り組んでいきます。

農林水産部生産振興課

☎098-866-1653



【農林水産部】

「沖縄地域スマート農業サミット・ 南大東村現地検討会」を開催しました

「スマート農業の加速化に向けて」

No.6

農林水産省では、現在、ロボット、AI、IoTなどの先端技術を活用して超省力化・高品質生産を実現する新たな農業「スマート農業」の社会実装を推進しています。この一環として、今年度から全国69地区で、スマート農業を実証するプロジェクトが開始され、沖縄県では南大東村において「さとうきびの生育情報に基づく精密栽培管理によるスマート農業体系の実証」が進められています。沖縄総合事務局では、本プロジェクト



自動操舵によるスマート農機の実演



シンポジウムの様子

クトに関する情報発信やスマート農業の更なる推進を目的として、10月30日、31日の両日、南大東村スマート農業実証コンソーシアムとの共催で「沖縄地域スマート農業サミット・南大東村現地検討会」を開催しました。

催しました。

スマート農機の実演会では150人ほどの参加があり、自動操舵（さとうきびの植付け、ドローンによる生育状況の確認などについて、作業実演・紹介が行われました。

引き続き行われたシンポジウムでは、国の取組や実証事業に関する講演の後、全国でのスマート農業の取組事例やスマート農機の普及に向けた課題（低コスト化など）について、活発な意見交換が行われました。

沖縄総合事務局では、労働力不足の解消や農作業の軽労化などを図るため、スマート農業の社会実装に向けた取組を推進していきます。

農林水産部生産振興課

☎098-866-1653